

## 令和6年度「スチューデントファーム“近江楽座”」 Aプロジェクト（学生主体型プロジェクト） 公開プレゼンテーションならびに審査 全体講評

スチューデントファーム「近江楽座」一まち・むら・くらしふれあい工舎は、「地域に根ざし、地域に学び、地域に貢献する」をコンセプトに、滋賀県立大学が全学的に取り組んでいる独自の教育プログラムです。

平成16年度の文部科学省の現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）に採択され、3年間の取組を経て、平成19年度から本学独自の予算で運営し、本年度20周年を迎えます。この間、多くの地域で、地域の人たちに支えられ、活動フィールドや拠点を広げ、様々な活動を展開しています。これまでの20年間で延べ448のプロジェクトが活動し、参加した学生は延べ約10,000名になります。

継続して取り組むことによって、地域にしっかりと根をおろし、地域と一体化しているプロジェクトや独自のスタイルを確立し、それぞれの分野で大事な役割を担っているプロジェクト、また自立できる活動へと展開を図っているプロジェクトも見られます。そしてプロジェクト同士が互いに連携し、近江楽座全体の力を高めています。

近江楽座は学生の様々な学びをつないでいく実践教育の場として学生の成長を促しており、また地域に根付いた活動として国内外から注目されています。7年前からは、よりよい未来社会を多くの人たちと共に創っていくSDGsという世界共通の目標の達成に向けて取り組んでいます。

本年度は、近江楽座の学生たちと地域の人たちが築いてきた関係性を再確認し、地域と大学、学生にとって、よりよい地域づくり、人づくりにつながる取組やしくみづくりを進めていく上で、節目の年になります。

募集する活動については、「地域活性化への貢献」をテーマとして、すべてSDGsとの関わりを意識し、SDGsの考え方や取組を地域や社会に広げていくとともに、CO2ネットゼロ社会の実現に貢献する活動についてのアイデアも求めました。また、コロナ禍で見えてきた課題を踏まえた新たな取組を期待しました。

プロジェクトの募集は、継続活動を対象とした①「継続プロジェクト」、新規活動を対象とした②「新規プロジェクト」、さらに③Sプロジェクトとして、これまでの実績をもとに更なるステップアップをめざす取組で、活動資金の助成は必要としないが、その他の活動支援を希望するものの3つの区分で行いました。その結果、応募件数は21件（継続20（うちSプロ2）、新規1）と、昨年度（21件）と同数でした。

5月25日（土）、全プロジェクトを対象とするプレゼンテーションを行いました。学生たちは、発表4分、質疑応答3分、合計7分という短い時間で、自分たちの活動目標や内容、意気込み、SDGsとの関わりなどについて熱のこもった発表を行いました。

審査員は5名のうち3名が学内、2名が学外の委員で、本学の卒業生で不動産のプランニングを通して建物や街をプロデュースされておられる方と地域おこし協力隊の経験をもとにコンセプトデザインを中心にイベントや情報発信、ボードゲームなどで地域の活性化に取り組まれておられる方をお願いし、地域づくりの実践の場を踏まえ、学生の活動発表に対して、鋭い質問や丁寧なコメント、評価、アドバイスをいただきました。

「新たにチャレンジすることや自分たちが主体となる部分」「学生ならではのというのはどういうことか」「あなたが、やりがいを感じるのはどんなところか」「メンバーの役割分担や参加率を高める工夫」「他団体との連携」「事業の費用対効果」「技術的問題と社会的需要の有無」「予算がアバウト」「パンフレットを作って誰に向かって発信するのか、PRの仕方」「SNSだけに頼らない伝え方」「地域活性化の地域の捉え方」「空き家関連の活動ー建物を使わせてもらうことへの感謝の気持ち」「中長期的ビジョンは」「活動の安全管理について」などについて質疑応答が行われました。

最後に、本学のそれぞれの学部の持ち味を生かして多様な活動が行われ、多くの成果が生まれていること、また、快く受け入れて下さる地域の方々がおられること、環境に恵まれていることに感謝し、こういうプログラムを20年間続けている、その価値を再確認し、先輩たちがやってきたことまた後輩たちへつないでいくために、自分たちの活動の今後の方針を再確認するまたとない機会となりました。

プロジェクトの申請書とプレゼンテーションの結果をもとに、引き続き審査会を行い、「安全対策(基本)」を確認し、「1.地域志向性」、「2.発信性」、「3.実現性」、「4.発展性」、「5.未来志向性」の5つの視点から評価し、限られた予算を有効に活用できるよう厳正に審議し、別掲の21件を本年度の「近江楽座」のプロジェクトとして採択することにしました。

今回のプレゼンテーションと審査会を通じて、次の7つのことが確認されました。是非、意識して実践してください。

1. 自分たちがおもしろいと思うことを思いっきりやる。 [主体性とチャレンジ精神]
2. 地域が発展するよう、地域の活動をサポートする。 [信頼関係づくり]
3. 多くの人に活動を知ってもらう。 [効果的な情報発信]
4. 楽座同士で連携を図る。学内外の他団体とも連携する。 [地域や社会への広がり]
5. 事業収支やデータを押さえ、効果や成果をきちんと出す。 [コスト意識]
6. ミッションやビジョン、成果・課題を確認し共有する。 [活動の継承]
7. 安全確保を充分に行い、事故を防止する。無理をしない。 [安全管理]

これから本年度の活動がスタートします。事故のないよう活動の安全管理を十分に行い、地域に学び、自分なりのやりがい見出し、仲間とともに活動を盛り上げていって下さい。学生のみみなさんの行動力や斬新なアイデアを生かして、大学と地域をつなぐ担い手として、それぞれの活動に取り組み、近江楽座が更に発展することを期待しています。

なお予算執行など、活動説明会を6月3日(月)12:30~13:00、交流センター研修室1~3で開催しますので、必ず参加して下さい。

令和6年5月30日

令和6年度「近江楽座」Aプロジェクト選定委員会  
近江楽座専門委員会

